

イエスは、まず弟子たちに話し始められた。「ファリサイ派の人々のパン種、すなわち、彼らの偽善に注意しなさい。覆われているもので現されないものはなく、隠れているもので知られずに済むものはない。」（ルカ12：1b～2）

「友人であるあなたがたに言うておく。体を殺しても、その後、それ以上何もできない者どもを恐れるな。誰を恐れるべきか、教えよう。それは、殺した後で、ゲヘナに投げ込む権威を持っている方だ。そうだ。言うておくが、この方を恐れなさい。」（ルカ12：4～5）

主イエスの周りを、言葉と業を求める群衆がいつも取り囲んでいた。この時、著者ルカは「数万人もの群衆」と数字を示し、足を踏み合うほどであったと書いている。福音書の中で、集まった群衆の人数を書いているのは、ここだけである。

主イエスは、まず弟子たちに話し始められた。マタイ福音書5章から始まる「山上の説教」で、主イエスが山に登り、腰を下ろされると、集まってきた弟子たちに、「イエスは口を開き、彼らに教えられた（マタイ5：2）」と、弟子たちにまず語られたと書いている。弟子たちに語りかけ、弟子たちを通して、民衆に広がることを求めておられた。主イエスは「ファリサイ派の人々のパン種、すなわち、彼らの偽善に注意しなさい」と語り始められた。ファリサイ派の人々は律法を学び、民衆に教える宗教家たちである。ところが彼らは、民衆を愛し、信仰に生きる幸いを教えるのではなく、宗教家の立場を利用し、自分たちの地位と名誉を求めて、権威主義的に教えていた。彼らの教えは民衆にとって、喜びのない、抑圧的なものでしかなかった。主イエスは、パンを膨らますパン種のような悪、立派そうな彼らの偽善に注意しなさいと警告された。そして「覆われているもので現されないものはなく、隠れているもので知られずに済むものはない。だから、あなたがたが暗闇で言ったことはみな、明るみで聞かれ、奥の部屋で耳にささやいたことは、屋根の上で言い広められる」と続けられた。内密な話として耳にささやいたことも、明るみに出され、公然と言い広められる。ファリサイ派の人々の偽善は必ず明らかにされていくと語られた。

主イエスは続いて弟子たちに「友人であるあなたがたに言うておく」と親しく呼びかけ、「体を殺しても、その後、それ以上何もできない者どもを恐れるな。誰を恐れるべきか、教えよう。それは、殺した後で、ゲヘナに投げ込む権威を持っている方だ。そうだ。言うておくが、この方を恐れなさい」と言われた。人は殺されることを恐れるが、その殺人者は殺すだけで、その後は何もできない。真に恐るべき方は、殺した後、ゲヘナに投げ込む権威を持っている方である。ゲヘナは、ヘブライ語で「ゲー・ヒノム」と言われた谷で、幼児をいけにえに献げた場所だったが、禁止された。その後、人間や動物の死体や汚物を捨てるようになり、火で焼かれる永遠の刑罰を受ける地獄の意味を持つ言葉となった。主イエスは、人が死んだ後、永遠の火で焼かれるゲヘナに送り込む権威を持つ方、この方のみを恐れよと語られた。五羽の雀はニアサリオンで売られている。その一羽でさえ、神の前で忘れられてはいない。神は、あなたがたの髪の毛を一本残らず数え、知っておられる。この世の何物をも恐れる必要はない。あなたがたは雀より優れた者である。神は必ず守り、祝福の場に招き入れてくださる。主イエスは、ファリサイ派の偽善に気をつけ、全てをご存じである神のみを恐れよと諭しておられる。この信仰が真の解放であるからである。